

地域医療連携室たより

No.27

発行日

2013年5月17日

医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより
第27号

「至誠堂総合病院 第9回地域連携交流会」開催

3月14日（木）大手門パルス 午後6時30分～

テーマ 高齢者における糖尿病の治療と問題点 ～病診・介護施設連携の中から～



3月14日（木）「至誠堂総合病院 第9回地域連携交流会」は多数の参加をいただきました。ご協力ありがとうございました。以下、ダイジェストでお伝え致します。



地域医療に学ぶ

～より穏やかな療養生活のために～

至誠堂総合病院 内科部長 富樫 厚仁 医師

当院の糖尿病の診療体制について

今、慢性疾患医療の基準を策定しようと糖尿病患者の登録を始めています。年代別患者をまとめてみると、当院の患者層としては圧倒的に高齢者が多くなっています。60歳台から始まって70歳でピークです。90歳台でも20名の外来患者がいます。診療体制としては3名の専門医がいて、薬剤師、看護師、管理栄養士など糖尿病療養指導士が6名います。入院の患者層では季節の変動がありますが、おおよそ全体の2割弱の患者が糖尿病の方です。今年4月から糖尿病の教育入院を院内のクリティカルパスとして開始予定で準備をすすめています。その他、多職種による糖尿病グループ会議があり、毎月定例開催し、症例検討や学会および各種研修会の報告、糖尿病教室「いきいきまなび会」の企画、患者友の会の活動援助を行っています。

低血糖をおこした患者から浮かび上がる問題点

3つの自験例を通し、低血糖をおこした患者の事例から次のような事が考えられます。まず、病院から、あるいは診療所からの診療情報提供書から得られる情報（治療経過、薬歴など）が不十分であったり、全くなかったり、「糖尿病連携手帳」が利用されていないことが多々あります。また、患者家族が血糖コントロールや糖尿病性合併症の程度について全く知らず、急変した時対処できないということがあります。これらの事例では低血糖を引き起こす誘因となったと思われる薬の処方、その他の背景についての問題点がありました。低血糖を防ぐということでは、むしろインスリン療法が有用であり、24時間超効く新しい持効型インスリン製剤の利用が増えるかもしれない。

自立障害（老年症候群）と糖尿病について

高齢者の老化による自立障害は糖尿病によって重層的に、かつ加速されます。様々な過程の自立障害をもつ患者の実態を把握し、指導体制をつくりチーム医療を実践していきたい。

チーム医療の最大限の発揮を

より穏やかな療養生活のためにチーム医療として患者本人、あるいはキーパーソンに対し、よりよい療養指導を行い、社会資源を活用していくように積極的に関わることが求められていると考えます。また、治療法においては妥協点を見出していくことも必要であります。医療、福祉、介護に関わる人たちと一致団結し、高齢糖尿病患者の療養支援をスムーズに行っていききたい。



在宅での高齢糖尿病患者の 管理のポイント

池澤内科クリニック院長 池澤 嘉弘 医師

高齢糖尿病患者の特徴とは？

食事にムラがあり、食欲が一定しない場合が多い一方、間食など食欲旺盛な人もみられます。また、糖尿病の罹病歴も長くなっていて、インスリン分泌能が低下していることが多く、血糖コントロールが不安定になる状況がみられます。やはり、できるだけ自分のインスリン分泌が多いほうがいいわけです。また活動性が低下しており、血糖コントロール（薬やインスリン）への食事や薬の影響が大きいと考えられます。

高齢者は食事制限なしに、やや高めの血糖コントロールを

当院では個々の例外はありますが、高齢者は基本的にほぼ食事制限なしの方向で考えています。また、「良好なコントロールが行われている」ということは低血糖のリスクも高くなりがちです。通常はやや高めの血糖コントロールを行っています。

認知症を有している高齢患者では低血糖になっていることに気づくことが遅れ、トラブルの基になることがあります。高齢者のHbA1Cは7.0~7.5でもやむを得ないかなと考えます。

低血糖時の対処としてはブドウ糖の補給（角砂糖、スティックの粉砂糖やグルコースサプライ）を行うが、1単位（80kcal）20gにこだわる必要はありません。測定は補給後でもかまわないし、あせって飲ま

す時にむせりには注意が必要です。

食欲の維持を優先に

高齢者では食事摂取や動作が両手の巧緻運動や嚥下機能の維持・改善の意味合いをもっています。嚥下機能障害を有している利用者では食事の形態についても常に考慮しておく必要があり、より良い食事形態を積極的に考えなければならないと考えます。食欲の維持を優先に考えることが大事であり、過度の食事制限はADLを低下させることに繋がります。食事摂取により上昇した血糖に対しては低下させる手段はあるが、恒常的に低下した食欲をなかなか元にもどすのは困難です。まずは食事を摂ってもらうということが大事です。

※血糖が高値の時や低値の時の考えられる具体的な例について提示がありました。



お薬のことで知ってほしいこと

至誠堂総合病院薬局主任 齊藤 信之 薬剤師

低血糖時の対処方法を家族に知らせていきたい

患者さんへ薬を渡す際は、どのようにしたら忘れずに薬を飲んでもらえるか考えながら説明し渡しています。高齢者には薬の管理面から特に一包化が勧められていますが、当然のことながら、デメリットも存在します。一

包化は、飲み忘れにより全ての薬に影響が出る可能性があり、また自己調整も困難となります。そのため、食事できない場合を想定し薬剤の管理について医師、薬剤師へ前もって相談しておく事が重要となります。経口糖尿病薬の中でも特に注意すべきはSU薬であり、服用時に低血糖症状が出た場合は遷延する可能性があるため注意深く見守りを行う必要があります。低血糖への対応については、高齢の患者の特徴として患者自身の対処能力の低下から家族の協力は不可欠ですが、家族に正しい知識がないと認知症と低血糖症状を見分けることができない場合があります。その点からも今後の課題は、「家族」への低血糖時の対処方法などの情報提供が重要と考えています。最後に、複数の医療機関にかかっている場合特に薬剤情報の共有化は重要なため、お薬手帳の活用について積極的な活用を勧めています。



老健さくらパレスの糖尿病の実態

老健施設 さくらパレス施設長 五十嵐仁子 医師

低血糖をおこさないようマイルドな血糖コントロールを

さくらパレス入所中の糖尿病患者では、リハビリと離床の促しから血糖コントロールが改善されるケースがあります。高齢の患者は脱水を起こしやすく高血糖となりやすい為水分摂取に気を付け、また食事摂取状況によっ

では適宜点滴を施行しています。食事のムラがある場合では、服薬によるコントロールが難しくインスリン治療へ変更する場合があります。中でも認知症の進行がみられる患者については、「低血糖を訴えられない」事が多いため低血糖をおこさないよう血糖値をみて高めのコントロールとしています。特に拒食、レベル低下、嘔吐などの症状の患者については低血糖をおこさないか注意深く観察をしています。低血糖は早期発見と、家族・スタッフのきちんとした対処方法が重要です。老健入所中の糖尿病患者については、できるだけ低血糖をおこさないようマイルドな血糖コントロールとなるよう治療に加え体重コントロールと服薬調整も行っています。



院長あいさつ

至誠堂総合病院院長 高橋 敬治

日頃より当院の医療活動に皆様にたいへんご協力いただきありがとうございます。ベッド稼働率も非常に高くなっており、皆様のご協力に感謝申し上げます。

当院の地域連携交流会も第9回を迎えました。年に2回開催し、シンポジウムと講演会形式を交互に行っています。毎回、たいへん多くの方々に関心を寄

開催に際し、高橋院長から挨拶がありました。

せていただいています。

さて、平成19年の国民健康医療調査によると、日本の糖尿病患者は2210万人で、10年前の1370万人の1.6倍となっています。60歳以上高齢者の男性の40%、女性は33%が糖尿病の疑いがあると報告されています。高齢者の3人にひとり以上が糖尿病の疾患に関わっています。糖尿病が他の疾病に影響を及ぼすことも多く、また、糖尿病患者の孤独死、さらには医療費が高いため中断に繋がっていくなど様々な問題があり、いかにこれらの背景を解決して正しく糖尿病をコントロールしていくかが今後重要な課題になってくると思います。

本日は活発なご討議をよろしく願いいたします。



閉会のあいさつ

至誠堂総合病院 整形外科部長兼リハビリテーション科部長

小林 真司 医師



当日は、234名の参加が得られました。



討議の時間では、参加者から意見や質問が寄せられました。

当院では糖尿病患者の療養支援を行っています










糖尿病教育入院

糖尿病は治療を続け、血糖をコントロールすることで合併症の発症や進行を遅らせることができます。それには患者自身、患者家族が糖尿病を十分理解した上で自己管理していくことが何より大切です。

そこで、当院では患者、患者家族が糖尿病を正しく理解していただけることを目的に「糖尿病教育入院」を実施しています。当院の医師、薬剤師、看護師、管理栄養士（糖尿病療養指導士の資格を持つ者を含む）が療養のサポートをします。

入院期間は1週間です。スケジュールは下記の通りです。

糖尿病教育入院スケジュール

| | 入院1日目(月) | 入院2日目(火) | 入院3日目(水) | 入院4日目(木) | 入院5日目(金) | 入院6日目(土) | 入院7日目(日) |
|----|---|---|---|--|---|--|----------|
| 検査 | 1.看護師による問診 2.身体・体重測定 3.採血・採尿・レントゲン・心電図検査 | ・10時から検査に提出する尿をためてもらいます。 ・腹部超音波検査があります。 | ・10時から検査に提出する尿をためてもらいます。 ・1日血糖測定があります。 | ・眼科による診察があります。  | ・主治医の先生より検査結果や治療についての説明があります。  | | |
| 治療 |  | ・薬剤師による服薬指導があります。(午前) ・検査技師による糖尿病に関する検査説明があります。(午後) | ・リハビリスタッフより運動療法についての説明があります。(午後)  | | ・栄養士による食事指導があります。食事を作る方の同席が必要です。(午後) (: ~) | | |
| 学習 | ・テキストを貸出します。(テキストをしますのでよくお読みください。) ・ビデオ①を鑑賞します。 | ・ビデオ②を鑑賞します。  | ・ビデオ③を鑑賞します。  | ・中間テストを行います。(間違ったところは復習しましょう。) ・ビデオ④を鑑賞します。 | ・ビデオ⑤⑥を鑑賞します。  | ・退院時テストを行います。 ・看護師より日常生活についての説明があります。 | ・退院です。 |

いきいきまなび会（患者会を中心にした学習会）

4月から毎週第3土曜日の13時から15時まで、内容は30分ずつ4講座、日頃の生活に役立つ情報を中心にお話しています。対象者は入院、外来の患者、ご家族、生活習慣病に関心のある方で、場所は当院講堂です。内容は下記の通りです。

| | 1講座 | 2講座 | 3講座 | 4講座 |
|-------|------------------------|------------------------|----------------|----------------|
| 4月20日 | 初めまして糖尿病～糖尿病はどんな顔 | 糖尿病の食事は健康食？ | 大切なお薬のお話 | 検査値の見方 |
| 5月25日 | 正しい治療がよいお付き合い～糖尿病は治るの？ | 主食・果物・主菜の摂る量とは？ | 運動の効果と気をつけること | 体調の悪いときはどうするの？ |
| 6月15日 | 良いお付き合いができないとどうなるの？ | 乳製品・油・野菜・調味料の摂る量と使い方は？ | 健診を受けてますか？ | 見えますか？あなたの足 |
| 7月20日 | 糖尿病と仲良くできますか？ | お菓子やアルコール・外食のカロリーって？ | 手軽にできる運動のお話と実技 | 歯のお手入れとは？ |



第二部 懇親会 顔の見える連携



懇親会が行われ、多くの方々より挨拶をいただきました。また、アンケートをたくさんいただきました。ありがとうございました。以下寄せられたアンケートを一部抜粋しました。

- 病院、在宅、施設の連携が大切。先生方の想いも感じられたいへん勉強になった。(介護支援専門員)
- 高齢化に伴ってインスリン注射の管理も難しくなるため、管理も問題がいろいろでてくる。低血糖が起きに

くい薬剤管理も難しい。(薬剤師)

- 糖尿病について再度学習することができて良かった。薬も組み合わせによって様々なリスクが生じることを知った。(リハビリ技士)



我が街 桜町・木の実町・旅籠町商店街 17



好吃再来 (ハツウザイライ)

山形市旅籠町1丁目2-21 Tel.023-635-2598

営業時間 11:00~15:00 17:00~22:00

◆店主：工藤和子さんに聞く

中国の最東北部黒龍江省から母親の住む山形に来てお店を開業し18年。定休日なく営業し、「休むと調子がおかしくなる」と話す元気でパワフルな店主。一人で切り盛りしています。お店は一步中に入ると中国の雰囲気とする店内。おすすめは色々な種類の餃子です。水餃子・スープ餃子・焼き餃子があり、本場中国の味が味わえます。また、麺類、ごはん物の種類も豊富に取り揃えています。お店の宣伝は特にしていないのですが、お昼、夜ともいつも常連客で賑わっています。中国のお酒も用意されており、料理と一緒に味わえば美味しさも倍増する事間違いなし!!



日本医療機能評価機構認定施設
病院機能評価 Ver.6

至誠堂総合病院

地域医療連携室

山形市桜町7-44

023-622-7551 (直通)

http://www.shiseido-hp.jp

E-mail mail@shiseido-hp.jp

発行責任者 至誠堂総合病院

小林 真司

編集 地域医療連携室